

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100050		
法人名	特定非営利活動法人いい日の里		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	山口県大島郡周防大島町棕野1338-5		
自己評価作成日	令和5年11月2日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島県広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に寄り添い、家庭的で心温まる介護・看護を心掛け、ご家族様との連携を大切にさせて頂いております。併設のデイサービス・小規模多機能サービスの利用者様と合同の、集団レクリエーションや行事に参加して頂き、なるべく他者との交流の機会を持てるよう配慮しています。月一回の誕生会、行事等も職員手作りの雰囲気、利用者様に楽しく過ごしていただけるよう努めています。利用者様の健康を第一に考え、また食事が楽しみになるように、毎朝地元の新鮮な食材を買い求め、三食手作りで心を込めたバランスの良い、少量で品数が多い多彩な献立の副食を、提供させて頂いています。ご家族からも高い評価をいただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今夏から新体制となった事業所における取り組みとして本人と共に過ごし支えあう関係作りがある。即ち、コロナ禍により、その閉じこもりがちな生活の弊害も考慮して利用者を理解し、役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。事業所内で出来る活動を工夫し、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し自信に繋がる事を大切にしている。隣接の系列事業所との合同レクリエーションに参加する等、他利用者との交流を通して生活の活性化を図っている。又、体力の基盤となる食についても食事を楽しむことのできる支援として、法人関連の畑で採れた野菜や朝市での購入、地域からの差し入れの野菜や魚等、地元ならではの旬な食材を活かし、料理の品数は多く、刺身料理が出る頻度も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、毎日職員が見ることが出来るようにしています。月1回のミーティングで確認し共有しています。	開設時に法人代表を中心に策定した理念を事業所に掲示して職員への周知を図り、ケア実践上の道標としている。毎月のミーティングの中で代表者が理念について説明し、職員に意識付けを図ると共に職員も言葉遣いについて意見交換をしたり、ケアの実践時に意識をするように努めている。	理念策定から11年を迎え、理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。事業所理念について毎月のミーティングの中で指導や意見交換を行っているが、具体的な達成度を定期的に検証できる仕組み作りを通して、評価を「可視化」することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との挨拶、会話を通じて交流が深められるよう努めています。	コロナ禍の緩和により、利用者は近隣散歩・利用者の地元地区へのドライブ・受診等で外出している。家族の面会・地域住民の運営推進会議への参加、近所から野菜等の差し入れ、パンの移動販売等、双方向の交流をし、隣接通所介護との合同レクに地域のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談の方に認知症の方の支援について説明をさせて頂いています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員に外部評価の意味を説明しています。評価を活かして改善に取り組めるようミーティングで話し合っています。	外部評価は管理者がミーティングで評価の意義を説明し、自己評価は職員から聴取した意見を参考に管理者が集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題の把握に努め、外部評価結果に基づいた目標達成計画に対して事業所として達成すべく具体的な改善策に取り組んでいる。	職員は外部評価の説明を通し日頃の実践課題の把握に努めているが、全職員が十分に理解・把握しているとは言えない。地域密着型サービスの意義を踏まえ、外部評価に基づく事業所の活動目標・関連項目や活用方法について職員が更に理解・共有できるよう、具体的な取り組みを期待したい。
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告を行い、委員の方から改善点について意見を頂き、サービス向上の為に取り組んでいます。	会議は隔月に開催し、8月からは民生委員・町介護保険課又は地域包括支援センター職員・利用者等との対面会議となっている。ヒヤリハット等、事業所の現況を参加者の意見交換と共に行い、参加者から地域の虐待事例の相談受付等の助言を得ている。新規の地域住民の参加依頼中である。	会議には民生委員・町介護保険課又は地域包括支援センター職員・利用者等の参加もあるが、コロナ禍であり家族の参加はない。家族との事業所運営に関する情報共有が不十分である。今後は不参加家族との情報共有・交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様やご家族様の報告すべき事柄等 連絡相談させていただいています。問題が 生じた時は相談と指導を受けています。	運営推進会議には町担当課又は地域包括 支援センター職員が参加し、情報を共有して いる。会議の開催報告書は担当課に郵送に て提出している。町担当課とは日頃から介護 保険制度に関する相談・報告や行政との医 療介護連携会議に参加して協力関係を築く ように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含め て身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全な環境づくりを大切に考えています。身 体拘束については、内部研修で勉強会をし ています。玄関の施錠はせず見守りを常時 行っています。	隔月の運営推進会議時に身体拘束委員会も 開催し、年1回の法人研修会等で職員は拘 束をしない必要性を認識し実践を重ねてい る。不適切なケアに対し職員は申し送りノート で共有し、日中は玄関を施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	ミーティングや研修で、話し合い、学習し、虐 待が無いよう、防止に努めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	研修で学ぶ機会を持ち、必要性を話し合っ ています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際、確認しながら、十分説明をさせ て頂くよう心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の説明をしています。 苦情、要望があれば、申し送りや、ミーティングで話し合い、その都度対応しています。	家族とは面会時・介護計画更新時・電話や様々な連絡手段で管理者や職員が要望を把握する様に努めている。又、定期的に事業所便りを送り、意見が出やすい関係作りに取り組んでいる。職員は申し送りノート・ミーティング等で情報共有し、迅速な対応に努めているが、要望等は特に出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見、提案を出し、全員で話し合っています。	毎月のミーティング、各種委員会、カンファレンス、毎日の申し送り・直後のミーティングや随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。職員の提案により、「優しい言葉」遣いや利用者の良肢位保持クッションを使用した例がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務に、やりがいを持って取り組めるように、環境に配慮、整備に努めています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には、慣れるまで経験のある職員がついて、指導しております。また研修の機会を設けています。	コロナ禍やグループホーム協会からの研修情報がないため外部研修は中止している。 内部研修は法人の年間計画で体系付けられた研修を毎月職員が交代で講師となり、ミーティングの前30分を利用して実施している。 新入職員にはOJT(職場内訓練)による支援にも取り組んでいる。	法人研修は実施しているが、事業所単独での研修や外部研修は実施していない。コロナ禍の緩和状況に応じて、外部研修情報を職員に提供し、職員の資質に応じた研修参加を促進し、復命・伝達講習や事業所単独研修の実施等を通して職員の人材育成を期待したい。
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周防大島町内の同業者と交流を持ち、ケアマネ利用者様を通じて交流を図っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをよく図り、訴えの傾聴を行い、安心してなんでも話して頂けるよう努力しています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	笑顔で応対し、否定的な言葉を使わず、不安な事、要望等を話していただけるよう努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族の訴えの傾聴、ケアマネ、包括との連携、情報の共有に努め、必要な支援を提供できるよう努めています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをよく図り、出来ることは手伝ってもらい、人生の先輩として、助言して頂いています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の衣類、布団等必要なものを持ってきて頂いたり、古くなった靴を買い替えて頂いたり、寂しい時、メンタル面での支援をお願いしたりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやり取り、電話の取り次ぎなどの支援をしています。お世話になった民生委員の方との連絡を取ったりしています。	現在は感染対策を実施して玄関での面会が可能である。「地域との絆」「気軽に訪問できる事業所作り」を大切にしており、電話・手紙のやり取り、受診、墓参り、利用者の地元地区へのドライブ等の外出を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の配慮をしたり、職員が間に入ってコミュニケーションが図れるようにしたり、馴染みの職員が関わったりしています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族が時々来られる方もおられ、関係を断ち切るという事はなく、支援できることは支援させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、なるべく、本人の望む暮らしをしていただけるよう努めています。	職員は利用者とゆっくり話す中で深く関わり思いを汲み取って、ミーティングや介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。利用者の生活歴等から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、風船バレー・脳トレ等、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによりご本人の状況は本人家族からの聴取で把握するよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、日々の観察、職員同士の情報の共有により本人の現状の把握に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見を聞いたり、月1回のミーティングで入居者様の介護について話し合っています。	本人、家族、関係職種の意見を反映した原案を担当者会議で検討し、家族同意を得て介護計画を完成させている。計画作成担当者が毎月モニタリングをし、4か月を基本に計画を見直している。うつ傾向にある利用者の精神的な安定を図るために併設事業所のレクリエーションでの交流に繋げた立案例がある。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の記入で、情報の共有をしています。それを、実践に活かせるよう努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご希望は、最大限添うように取り組んでいます。日々の生活が、変化のある楽しみのある生活になるように、アプローチしていきたいと思っています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	パンの移動販売、ヘアークット、介護タクシー等の地域資源の活用により安全で豊かな生活が出来るよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診にお連れする方はご家族が、それ以外の方は施設の看護師が受診にお連れしています。体調不良時はかかりつけ医に往診をお願いしています。	全利用者は利用前の主治医を継続しており、内科・他科については家族又は非常勤看護師が適宜受診に協力している。また体調不良時は主治医の往診となり、歯科は必要時に往診又は受診をしている。法人の非常勤看護師による健康管理もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回(夜勤から日勤、日勤から夜勤)の申し送りの際は、必ず看護師が参加し、介護職員の報告、看護師の助言を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際情報提供や、退院の際サマリーを頂いたり、情報交換を行っています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しており、重度化した時はご家族と十分話し合い、主治医に協力を依頼し、支援に取り組んでいます。	利用開始時に重度化・終末期における指針を説明し、了承を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には早い段階から家族・医師等で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。協力医との医療連携をもとに介護医療院等への移行を含め、適切な支援を行う方針である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎日の申し送りで、一人、ひとりの状態を、確認し事故防止に取り組んでいます。看護師が万が一の事故に備えて、対策を指導しています。	事故防止の実践力を高めるためヒヤリハット・事故報告書は発見者が作成し、日勤者で対策を協議、申し送りで他の職員と情報共有をしている。その後、毎月のミーティングで総括をし、防止策等を運営推進会議で公表している。職員は適宜法人の看護師から初期対応等の指導を受けている。	急変や事故発生時に備えて看護師の指導や事故報告書の活用等を通し事案に対応している。ただ各職員の初期対応力について一定の実践力を保つ平準化に課題がある。計画・実行・評価・改善を踏まえた、体が忘れないための更なる実践力の育成に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し月1回のミーティングで確認しています。	法人と合同で利用者も参加し年2回の火災訓練を実施している。ハザードマップでは非該当地域だが隣接元小学校校庭が災害時の緊急避難場所であり、減災対策として事業所で3日分の備蓄整備がある。民生委員に災害時の協力要請をしており、BCP(災害時事業継続計画)を整備中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては、毎年、勉強会をしています。尊厳やプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めております。	研修で職員の幅広い知識習得と資質向上を図っている。特に接遇向上を重視し、理念に掲げる「優しい言葉、優しい態度」で接するように努めている。又、不適切な対応には職員間でも注意し合っている。個人ファイルについても介護計画で使うとき以外は鍵付きロッカーに保管している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを良く図り、訴えの傾聴をし、ご本人の思いをくみ取れるように、自己決定できるように働きかけています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れではなく、ご本人様のペースを大切にし、パーソン・センタード・ケアの考え方でケアできるよう心掛けています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に服を選んでいただいたり、整容に関しては、出来る方はご本人にして頂き、できない方は介助で行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、調理の手伝いが出来る方はおられません。片付けは出来る方にお手伝いして頂いています。	毎日の献立は代表者が立て、法人の厨房で調理したものを提供している。法人関連の畑で採れた野菜や朝市での購入、地域からの差し入れの野菜や魚等を使い、料理の品数は多く、海も近く刺身料理が出る頻度も多い。利用者は片付け等を手伝い、家族との外食や移動パン屋の訪問もある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少量で品数が多いバランスの良い食事を提供しています。水分を多めに摂る必要がある方には、OS-1を飲用して頂いています。食事量が少ない方には少なめに、その方の状態に応じた、食事形態で提供しています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂き、介助が必要な方は介助しています。義歯の方は毎日ポリデントを使用しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できる方はトイレで排泄して頂き、トイレ誘導が必要な方はトイレ誘導しています。ご本人の状態により居室にポータブルトイレを設置したりしてなるべく失敗なく、トイレで排泄できるような支援に努めています。	排泄記録表で排泄パターンを把握してトイレ誘導を基本としている。尊厳やプライバシーに配慮してケアに関わり、体調に合わせたパンツの使い分け、姿勢安定のために可動式手すりの設置、夜間排泄時の転倒防止に人感センサーを設置する等、状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	副食は野菜を多めに使っています。朝食は果物・コーヒーを、また朝食・昼食時は、具沢山の味噌汁を提供しています。、毎日のレク時は体操をして頂き、毎日排便チェックを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回。時間は9時～12時までの間ですが、曜日はご本人のタイミングに合わせ、午後に入浴される場合もあります。	週2回以上の午前又は午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対応している。入浴は半埋め込み式家庭浴槽を利用した個人浴だが、利用者の負担を考え、シャワー浴や足浴等に対応することもある。寛げるように入浴剤や個人専用の保湿クリームを使用することもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態で、午前中休んで頂いたり、午後休んで頂いたりしていますが、夜眠れなくなる場合もありますので、昼夜逆転にならないよう、なるべく日中は離床して活動して頂くようにしています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りの際、看護師が薬の説明をしています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞折り、食器拭き、を手伝っていただいています。塗り絵が好きな方、字を書いたり、新聞を読んだり、雑誌を読んだりして頂いています。	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。食事の片付け等の家事や併設事業所の足湯や移動パン屋の利用等、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を散歩して頂いたり、施設の車でドライブをしたりしています。	コロナ禍の緩和に応じ、利用者の希望により少人数で近隣散歩や家族協力も得ながらの受診等で外出している。花見・近隣ドライブ等、普段は行けないような所で「非日常」を楽しむこともある。又併設事業所の利用者との交流や利用者の自宅前までの外出等、個別外出支援もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は少し手元に置かれる方がいましたが、認知症があり、どこか違うところに置いたり、「盗られた」と言われた事があり、現在は事務所でお預かりしています。ご家族と一緒に外出された場合は、お金を使われることがあるようです。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話していただいたり、ご家族から手紙や葉書が来れば本人に渡し見てもらっています。読めない方は、職員が手紙を読んで差し上げています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整頓された環境づくりや快適に過ごせるよう温度管理にも留意している。季節の花を各所に生けるなど季節感を取り入れている。思い思いに過ごせる空間づくりを心掛けている。	玄関先にフジバカマ等、季節の花・地域からの差し入れ野菜や季節行事の飾り付け等で季節の移ろいが感じられる様配慮している。食堂には配置替えが出来る丸テーブルや利用者同士が肩を寄せ合って昼寝して寛げるソファもある。又、感染症対策や温湿度管理にも配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室ユニット型なので、一人になる時間はあります。ホールでの過ごし方に気を使っています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃、環境づくりに配慮しています。好きなものを持ち込まれたり、自由性を大切にしています。家具や小物の配置等ご本人やご家族の希望を尊重し相談しながら対応しています。	居室にはベッド・タンス等を設置し、クッション等、使い慣れた物や自分の作品等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。人感センサーやポータブルトイレを設置して転倒防止を図ったり、ベッドから居室扉までの導線確保のため家具の配置替えをする例もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなくフローリングで問題はないと思います。混乱やけがが無いよう表示灯もしています。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームすこやか

作成日

令和6年1月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	職員は、外部評価の説明を通し日頃の実践課題の把握に努めているが全職員が十分に理解し取りくめているとはいえない。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、実践課題を把握し、改善策に取り組む。	月1回のミーティングで取り上げ、できる事から取り組んでいく。	12か月
2	35	急変時や事故発生時の初期対応についてすべての職員が実践力を身に付けているとはいえない。	急変時や事故発生時の初期対応、また、事故防止の実践力を身に付ける事ができる。	急変時、事故発生時のマニュアルを活用し、勉強会を行う。職員一人ひとりが自己研鑽に努める。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。